

家庭科教育内容に関する調査

中 妻 静 子

I 研究目的

家庭科教育は、今、混迷の状況におかれ、その再検討、再編成が日程にのぼっている。この意味から、家庭科の教科理論の確立は今日的課題であるといえるが、それと同時に、教授・学習過程上の基本問題を教授学的観点から検討することも教科の建て直しに密接に関連する重要な課題である。(①) 本研究は後者に関する研究の一環として行なったものであり、調査を通して、教育内容を中核とする教授・学習過程上の実態と問題点を把握・分析することを目的としている。

II 研究方法

家庭科教師対象のアンケート調査法

- ①調査時期 1974年8月1日～31日
- ②調査対象 広島県下の小・中・高校の家庭科担当教師 (対象数：小学校148名、中学校185名、高校166名、計499名)
- ③回収数(率) 各々、68名(48%)、65名(35%)、55名(33%)、計188名(38%)
- ④調査方法 質問紙郵送によるアンケート調査法
- ⑤質問項目の構成
 - 1 家庭科の授業の現状 (6問)
 - 2 家庭科の教育内容についての教師の意識 (7問)
 - 3 家庭科の授業改善への教師の意欲 (4問)

III 結果および考察

1 家庭科の授業の現状 (表1)

- ① 最近、各教科とも教育内容の増大がいわれているが、家庭科も例外ではなく、そしてそれは低学年よりも高学年に於いて深刻であることが指摘された。
- ② 家庭科の現行授業時間数については、中・高校段階で「少なすぎる」ことが指摘され、家庭科廃止論(②)が出されている今日、逆に、家庭科専門の教師は時間数の増加を望んでいることが明らかになった。
- ③ 家庭科の授業は、小・中学校段階では「実習・製作・実験」に重きが置かれ、高校段階で初めて「議義」が半数を占めるという現状である。
- ④ 生徒に持たせる教材として「教科書」が圧倒的で

あるのは当然としても、小学校段階で「市販の教材セット」・高校段階で「実習・製作の手引き」が多く使用されているのは特筆すべきである。

- ⑤ 教科書は小・中・高校を通して「授業中に時々使われる」傾向にあるが、高校に於ては、40%の教師が「授業中連続して使用する」と答えている。このような利用状況を考える時、教科書内容の持つ重要性が改めて認識させられる。
- ⑥ 教科書は、小学校段階では「学習の課題をはっきりさせる」ために使用され、中・高校段階では「学習内容の説明」に使われている。また、全般的に「授業のまとめ」として利用されることが多く、授業に於ける教科書の役割りは決して少なくないと言える。

表1 家庭科の授業の現状 (M・Aは複数回答)

質問項目	小学校	中学校	高校
1 現行家庭科で取り扱っている内容は			
ア. 多すぎる	43.5	88.4	74.5
イ. 適当である	50.7	13.6	12.7
ウ. 少なすぎる	0	1.5	5.5
2 家庭科のための現行授業時間数は			
ア. 多すぎる	1.4	6.1	3.6
イ. 適当である	72.5	40.9	29.1
ウ. 少なすぎる	26.1	50.0	63.7
3 家庭科の授業全体で占める割合			
ア. 講義	38.4	34.7	52.8
イ. 実習・製作・実験	61.6	65.3	47.2
4 生徒に持たせる教材等は次のどれですか。			
ア. 教科書	92.8	95.5	94.5
イ. 実習・製作の手引	7.2	16.7	65.5
ウ. 市販の標準セット	15.9	18.2	0
エ. 市販の教材セット	56.5	10.6	5.5
オ. その他(具体的に)	11.6	1.5	1.8
5 あなたは家庭科教科書を授業中どのように使用していますか。			
ア. 授業時間中連続して使用する	15.9	19.7	10.0
イ. 授業中に時々使用する	79.8	75.8	58.2
ウ. 授業にはほとんど使用しない	2.9	1.5	1.9
エ. 授業では全く使わない	0	1.5	0
オ. その他(具体的に)	0	1.5	8.6
6 家庭科教科書の使い方は次のどの場合が多いですか			
ア. 学習の課題をはっきりさせる	55.1	34.8	35.4
イ. 学習内容の説明に使う	26.1	59.1	45.5
ウ. 授業のまとめとして使う	34.8	44.8	34.5
エ. その他(具体的に)	2.9	6.1	5.5

2 家庭科教育内容についての教師の意識……(表2)

- ⑦ 家庭科の性格については諸論があるが、教師の大多数は「家庭生活に関する実習・製作」を強調すべき教科として扱っている。
- ⑧ 学校教育に「人間性」を取り戻すことは、1970年代の教育課題とされている(③)が、家庭科に於ても現在以上に「人間性」を追求した学習の必要性が考えられている。
- ⑨ 家庭科の改善点としては、特に「教育内容の精選」が要求されている。内容精選は今回の学習指導要領改訂の中心的な柱であったが、今なおその必要性がいわれ、教育実践場に於ても重大な問題となっている。
- ⑩⑪ 学習指導要領は、現在、法的拘束力を持つと言われているが、これに準拠して指導を行なうことに対し、大多数の教師は否定的である。これには、学習指導要領に盛り込まれている内容が教師を満足させるに足らないということも原因していると思われる。
- ⑫⑬ 家庭科の指導に於いて、教科書への依存度は高いが、その内容には数々の欠点があることが指摘された。即ち、児童・生徒にとっておもしろくない、内容が多すぎる、内容が画一的である、等々であるが、教科書の欠点を指摘したのは、高校教師に多く、高校家庭科教科書内容の再検討が急がれる。

表2 家庭科の教育内容についての教師の意識

質問項目	小学校	中学校	高校
⑦ 家庭科では家庭生活に関する実習・製作を ア. 強調する必要がある イ. さほど強調するには及ばない ウ. 必要としない	65.2 31.9 0	68.2 31.8 9	58.1 36.4 0
⑧ 家庭科において今以上に人間性を追求した学習は ア. 必要である イ. よいと思うが無理である ウ. 不必要である	55.2 36.2 4.8	69.7 28.8 0	65.4 29.1 0
⑨ 家庭科はどのような点で改善するか ア. 学習形態の改善である イ. 内容を精選することである ウ. 内容選定に教師の自主性を認めることである	18.8 71.0 20.3	27.8 78.8 33.8	34.5 92.7 36.4
⑩ 家庭科の指導内容は ア. 学習指導要領に準拠するのがよい イ. 教師の自主的判断に任せるべきである	52.2 36.2	36.4 40.9	25.5 36.4
⑪ 現行学習指導要領にもり込まれている内容について ア. 現行の内容のままでよい イ. 削除した方がよいと思う内容がある ウ. 指導対象学年を変更した方がよい内容がある エ. さらにつけ加えたい内容がある	60.1 21.7 5.8 13.0	16.7 57.6 33.8 21.2	38.2 29.1 7.8 23.6
⑫ 今後の家庭科の指導において教科書はどうか A. 教科書は必要である(理由) B. 教科書は必要でない(理由)	81.8 7.2	84.9 8.0	89.1 1.8
⑬ 使用中の家庭科教科書にはどんな欠点がありますか ア. 内容が画一的である イ. 内容が科学的でない ウ. 内容が多すぎる エ. 絵・写真・図表が不適当 オ. 児童・生徒にとっておもしろくない カ. 系統性がない キ. 不必要な教材が多すぎる ク. 文章表現が不適当	21.7 10.1 21.7 14.5 27.5 8.7 10.1 11.6	22.7 15.2 50.0 15.2 18.2 1.6 21.2 16.7	29.1 36.4 29.1 34.5 36.4 20.0 23.6 32.7

3 家庭科の授業改善への教師の意欲……(表3)

- ⑭⑮ 諸外国の家庭科教育の動向に関心を持つ教師は多く、必要性を感じている教師は全員に近い。
- ⑯ 新しい学習指導方法を試みているのは中・高校の教師に多く、具体的には教育機器の導入をあげている。
- ⑰ 学習指導法の一つとして発見的手法を用いる必要は大いにあるとされ、従来の指導方法改善への教師の意欲が伺われる。

表3 家庭科の授業改善への教師の意欲

質問項目	小学校	中学校	高校
⑭ 諸外国の家庭科教育の動向に ア. 関心がある(具体的に) イ. 関心がない	99 65.2	99 77.3	99 94.6
⑮ 諸外国の家庭科教育に関心を持つことは ア. 必要である イ. 不必要である	88.4 5.8	97.0 1.5	96.4 1.8
⑯ 新しい学習指導方法をとり入れて授業をしてみたこと ア. ある(具体的に) イ. ない	18.0 76.9	42.4 48.5	48.6 49.0
⑰ 家庭科で発見的手法を用いた学習指導をする ア. 必要がある(具体的に) イ. 必要がない	50.8 15.9	68.2 12.1	63.6 10.9

IV 結 論

1. 家庭科教育改善のための中心的課題は教育内容の精選である。
2. 内容精選には学習指導要領、式レベルでの精選と、実践レベルでの精選の二つがある。現在、前者に関してはその不十分さが至る所で指摘され、後者が教師の急務とされているが、それを可能にするためには、指導内容の選定を教師の自主的判断に任せることがまず必要とされる。
3. 内容精選と関連して、教科書のあり方を再検討し、同時にその内容の改善を図ることが望まれる。
4. 家庭科教育の改善にあたっては他の諸条件と共に教師の主体性ということが大きな要因をなすが、調査から、小学校よりも中・高校の教師の方が主体的であることが判明した。小学校家庭科の廃止が強調されている(④)今日、考えるべき問題であると思われる。

(広島大学大学院)

参 考 文 献

- ① 大学家庭科教育研究会編 現代家庭科研究序説 明治図書 1972
- ② 教育制度検討委員会編 日本の教育改革を求めて 勁草書房 1974
- ③ 広岡亮蔵著 教育内容精選の「視点」は何か 現代教育科学 1974. 10 No. 205
- ④ 全国連合小学校長会 小学校教育課程改善への提言 学校時報 1973. 5 No. 261